

Book Reviews [自著紹介]



この書は、著者が長い間研究を続けてきた内容をまとめたもので、内容は大きくわけて二つからなっています。

本書の前半では、その思想の獨創性と歴史的意義について明らかにしました。大阪近郊の豪農、中盛彬の思想についてです。彼は、大庄屋の家に生まれ、西洋天文学を学び、当時の著名な儒学者である皆川淇園とも交流があったほどの学問を身につけていました。その上、言霊思想にも傾倒し、その言霊思想を媒介にして、当時最新の西洋天文学の成果を国学思想の枠組みで捉え、独創的なコスモロジーを提示しました。

後半では、同じ大阪南部の豪農で尊皇攘夷運動に奔走した中瑞雲齋の政治運動思想について、その形成

の過程と「家」意識との問題を明らかにしました。

本書で中心に取り上げた思想は国学思想ですが、中盛彬の史料は学界に公開されていないため、翻刻の作業からすべてを筆者が行い思想分析をしました。その結果、中盛彬の国学思想が現在学界でも知られていない独創的な側面を有していることがわかり、その意味でも、国学思想史研究にとって新たな提起をなしたものと考えています。



総合科学部人間社会学科
桑原 恵
 『幕末国学の諸相』
 コスモロジー／政治運動／家意識

出版社:大阪大学出版会
 定価:6,400円
 発刊日:2004年2月1日

本書を書くきっかけとなったのは、長年に渡る民間薬調査の結果、特に佐那河内村の85歳の健康老人・美郷村の骨粗鬆症を改善させた80歳の女性の調査があったからです。

現在、骨粗鬆症やアレルギーやアトピー患者の増加、低年齢化(幼児化)が問題になっています。昔は1歳未満の子にはアトピーは発症していません。しかし現在は、3ヶ月ぐらいでもアトピーが発症しています。それらを民間薬調査の結果を基に考えると、栽培条件の変化で、カルシウムやマグネシウムなどとナトリウムのバランスが自然界の物とかけ離れた状態となり、更に食品添加物、保存剤等の添加で、悪化し、野菜類では補うことのできない現状が見つかりました。その解決法に、山菜を食べなさいでは、材料として量的に不足します。現在の野菜に、

ナトリウムに対する他のミネラルの増加を求めても、堆肥を使わない農業には無理です。そこで現存する食材でミネラル含有の多い物を探すと、果実に行き当たります。しかしその果実ですら、ミネラル分が多いのは果皮部分です。果肉部は果皮と比較すると、それは極端に少ないのです。例えば、ミカンが果皮が薬用に使われますが、果肉部は薬用には使用されません。しかし、一般に皮は剥いて捨てられます。次善の策として、皮も食べられて、必要なミネラルを摂取でき、誰もが簡単に得られる方法はないかと考えると、昔からトンド焼き(左義長)などで行っていた焼きミカンが思い当たったのです。いろいろな果実を焼き、皮ごと食べることで、健康効果が得られるのです。そんな理由で本書を書きました。



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 創薬資源科学部門
村上光太郎
 『「焼き」くだもので10歳若返る』
 出版社:祥伝社